

Amir Tsarfati 氏 中東情勢アップデート 2018年 4月 26日公開 聖書預言、次にくるものは?

(日本時間4月27日午前3時)

皆さんこんばんは。アミール・ツアルファティです。ガリラヤより、2018年4月26日木曜日、感謝な事に、自宅にいます。今日は、現在起こっている事についてお話して、それから現在の状況が、預言の成就なのか、聖書には書かれていないが聖書の預言が成就するために起こっている出来事なのか、それぞれの点と点を繋げていきたいと思います。私たちは時々、興奮しすぎるあまりに、神が神の約束を成就させるのを、私たちが手助けしようとしがちです。しかし、覚えていますか? アブラハムは息子を約束されていましたが、彼は非常に歳をとっていましたが、長子を与えると約束されていたのです。しかし彼には、その約束だけでは足りませんでした。彼は状況に目を向けていました。状況を見れば、彼は歳をとって、彼の中では「それはあり得ない」のは明らかでした。そこで彼は、妻のサライも一緒になって「助けなければ」と考えたのです。しかし、神に助けは必要ありません。神は、イシュマエルが生まれなくても、イサクをお与えになりました。残念ながら、私たち信者も一つの事を重視するあまり、他の事を見過ごし、無視してしまうことがよくあります。ですから、それについて、いくつかの事を説明させていただきます。

まず第一に、皆さんの中の多くの人が現在、マクロン大統領のアメリカ訪問を注目しておられると思います。そして、世界の指導者二人の間にある、奇妙なものを感じておられるでしょう。トランプは心を奪われて…何と言うか、まるでこのフランス大統領の魔法にでもかかったように…と言いますか、一体どうなっているんだろう? 彼らは意気投合している様にも見えるが? しかし、この二人の演説をよく聞いてみると、特に、マクロン大統領が両方の議会に向けた演説では、この世界の指導者二人の間に物凄いギャップがあることに気づくでしょう。



マクロン仏大統領 (左) とトランプ米大統領

皆さんが理解すべきは、一方は地球温暖化運動の完全なる産物であり、他方は地球温暖化を止める運動の完全なる産物です。

一方は、完全な世界政府派の人物で、気候問題を再び前面に押し出し、全ての悪を行う者たちを満足させようとしています。

そして他方は言います。

「それはない。我々はあまりにも長くの間、欺かれ続けて来たのだ。我々は優先事項を完全に変える。」

私のところに、次のような質問が寄せられています。

「マクロンは、トランプがイラン合意に留まるように説得すると思うか?」

「マクロンが、自分の功績として自国のパリに持ち帰れるものは何なのか?」

それについて説明しますと、まず第一にトランプ大統領は、それについて非常に明確に、非常に詳細に告げています。

「イランとの合意は、あれは、ただ悪かっただけでなく、とんでもないものであり、最低だ。あの問題の一つ一つ、さらにそれが上手く行かないということが、どうして誰にも分からないのか、理解に苦しむ。」

イラン協議に調印されてからというもの、イランは中東全域の土地と支配力を占領しようと、暴挙に出ています。そのため、彼らは現在の中東不安の最大の要因となっています。皆さんは実際に起こっている事をご存知ないと思いますが、イランはイエメンのフーシ派反乱軍に武器を与えていて、イエメン人たちはすでに、サウジアラビアの石油輸送船を15隻撃沈させています。彼らは弾道ミサイルを毎週発射しています。それに加えて彼らは、自らシリアに地位を確立し、レバノンやイラク、その他の場所に自分たちの軍を置いています。そこでトランプ大統領は、それら全てを理解して言っているのです。

「この協議は、これらの事について述べていない。だから私は、この協議に加わる事は出来ない。」

しかしフランスの大統領は言います。

「いや、この協議を維持して、もう一つ別のものを設けよう。」

何の意味もない協議を維持しながら、イランが自分たちのやりたいことができなくなるように、完全に縛り付ける別の協議に従うなどと考える人がいるなんて、私には理解出来ません。当然、それはあり得ません。

ですから唯一、マクロンが自分の功績として自国に持ち帰ることが出来るのは、この時点でシリアに留まるよう、トランプ大統領を説得したことぐらいでしょう。ただ、面白いことにトランプ大統領は「留まる」と言っています。

「もし、サウジがアメリカ駐留の経費を負担するなら」です。

言い換えれば、マクロンがそれを自分のものにすれば良いですが、しかし、アメリカ大統領の言ったのは

「我々は何十億ドルというお金を無駄に注ぎ込んできた。だから、我々にあちらに留まり、彼らの利益を守ってほしいなら、その者がそのための費用を支払うべきである。」

これが基本的には、あちらで起こっている事です。では、私たちは一体何を目撃しているのか？ 私たちが目撃しているのは、ヨーロッパの代表者、世界統一経済、グローバリゼーション、反キリストの興りに導く者です。マクロンは、反キリストの先駆者だと私は思っています。彼の登場や何かを見ていると、そこに疑う余地はありません。しかし彼は、反キリストではありません。私が見る限り、彼は自分の国をコントロールする事さえ出来ていませんから。現在フランスは大変な危機に直面しており、いたるところで常に暴動が起こっています。フランスのユダヤ人たちは、ユダヤ人がパリやニースやその他の場所を歩くのは、非常に危険であることを理解しています。ですから、彼が反キリストである、とは私は思いますが、彼はその先駆者です。このように、一方は何かをしようとしていて、他方アメリカの大統領は言っています。

「世界の危機、世界の問題は分かるが、我々はそれに何十億ドルも注ぎ込まない。事実、我々は何も問題解決出来なかったことを理解しなければならない。だから、最終的に私たちは、中東のメンバーに自分たちの問題を対処させなければならないのだ。」

これら全てから私たちに分かるのは、近い将来起こる、次の中東での危機、もしくは戦争の時には、アメリカもヨーロッパも両方ともが受け身の態度になる、ということです。

次に、この80年ほどの間に中東で起こった出来事を、順序立てて説明します。それによって、イスラエルの歴史の一つ一つの章を、聖書的な部分と繋げることが出来ると思います。時に私たちは、預言が成就されるのを見て、感動するあまり、聖書の一部をイスラエルの歴史の中の間違った章と繋げてしまいがちで、それは危険なことです。ですから、私たちは次のことを理解しておかなければなりません。まず第一に、この2000年の間、イスラエルには非常に少数のユダヤ人がただけでした。過去500年の間、そこはほぼ死んでいて、150年前にマーク・トウェインがそこを訪れた時に、そこが不毛の地であったことを文書で証言しています。



マーク・トウェイン

それから、まず土地が回復されなければならなかったことを私たちは知っています。それが、エゼキエル 36 章が伝えている事です。エゼキエル 36 章 8 節にはこうあります。

8 **だが、おまえたち、イスラエルの山々よ。おまえたちは枝を出し、わたしの民イスラエルのために実を結ぶ。彼らが帰って来るのが近いからだ。**

(エゼキエル 36:8)

エゼキエル 36 章は、イスラエル人たちの大帰還に向けて、土地が備えられることを告げています。それから、国家が一日で誕生することが書かれています。国家誕生は人々が世界の隅々から戻って来る結果として起こるのです。それは、エゼキエル 37 章で、エゼキエルが語っています。そこでは、主がユダヤ人、イスラエル人を——ところで、ホロコーストの時まで、彼らは神がユダヤ人たちを見放したと思っていたのです。神は、彼らのことを完全に忘れてしまった、と。そこで神は、こう言っておられます。

11 …「人の子よ、これらの骨はイスラエルの全家である。ああ、彼らは、『私たちの骨は干からび、望みは消え失せ、私たちは断ち切られる』と言っている。

(エゼキエル 37:11)



ホロコースト

彼らは、神に見放されたと思っていたのです。ところが、神は言われます。

12 …わたしの民よ。見よ。わたしはあなたがたの墓を開き、あなたがたをその墓から引き上げて、イスラエルの地に連れて行く。

13 わたしの民よ。わたしがあなたがたの墓を開き、あなたがたをその墓から引き上げるとき、あなたがたは、わたしが主であることを知ろう。

14 わたしがまた、わたしの霊をあなたがたのうちに入れると、あなたがたは生き返る。わたしは、あなたがたをあなたがたの地に住みつかせる。このとき、あなたがたは、主であるわたしがこれを語り、これを成し遂げたこと

を知ろう。——主の御告げ——

(エゼキエル 37:12~14)

このように、主は、ユダヤ人の故国への帰還に先立って、イスラエルの地を回復させ、ユダヤ人の帰還へ備えることについて告げておられます。エゼキエル 37 章では、イスラエル人が激しい傷を負うこと、激しいホロコーストについて語っています。彼らは、神にすっかり見放されたと思っていたのです。彼らの骨は干からび、望みは失せ、彼らは断ち切られたと考えていました。しかし、神は彼らに言われました。

「それは違う。わたしは、あなたがたを見放してはいない。事実、わたしはまもなく、あなたがたを肉体的に回復させ、あなたがたがどこにしようと、あなたがたの地であるイスラエルの地に、肉体的に帰還させる。」

これが、エゼキエル 37 章が告げていることです。

このように、38 章、39 章への準備である 36 章、37 章が既に成就したのを、私たちは見えています。そして、興味深いのは、イスラエル人が故国に戻ると、——もちろん、これがイスラエルの国家としての誕生であり、帰還です。土地、国旗、国歌を持つ国となりました。それによって、伝統ある国家となるのです。それはまさに、イザヤ書 66 章が告げていることです。

- 6 …町からの騒ぎ、宮からの声、敵に報復しておられる主の御声を。
- 7 彼女は産みの苦しみをする前に産み、陣痛の起こる前に男の子を産み落としした。
- 8 だれが、このような事を聞き、だれが、これらの事を見たか。地は一日の陣痛で産み出されようか。国は一瞬にして生まれようか。ところがシオンは、陣痛を起こすと同時に子らを産んだのだ。
- 9 「わたしが産み出させるようにしながら、産ませないだろうか」と主は仰せられる。「わたしは産ませる者なのに、胎を閉ざすだろうか」とあなたの神は仰せられる。

10 エルサレムとともに喜び。…これとともに楽しみ。…

(イザヤ 66:6~10)

このようにまず、神は、土地を回復されました。それから神は、それぞれ異なる場所での根絶や大虐殺から人々を回復させ、そして、

「わたしは、あなたがたを見放してはいない。心配するな」

と言われました。

「わたしがあなたがたを、あなたの地、イスラエルに戻す」と。

そして彼らが故国に戻ったら、一夜にして、1948 年 5 月 14 日、イギリスがそこを去ると、一夜にして国家が誕生したのです。神は、胎が子を産むことを止めませんでした。

そして国家は誕生し、イスラエルが 70 年前に誕生したのです。人々は故国に帰りました。

しかし、覚えておいてください。この次に、非常に特記すべき事が起こるのです。故国に帰還した人たちの多くは、ホロコースト生存者です。そこで、ある事を覚えていてください。恐らく皆さんはご存知ないでしょうが、彼らにとって最初の数年間、どれぐらいたか分かりませんが、イスラエルが存在し始めて最初の 10 年、20 年、それ以上かもしれません。当時彼らにとっては、毎日毎日が人生最後の日になり得たのです。彼らは、国家としてのイスラエルの首に突き付けられている剣を目にしていたのです。その時、私たちを滅ぼそうとしていたのは、エジプト、ヨルダン、シリア、レバノンで、当時イラクなど、私たちから遠く離れた国々までもが、お金や兵士を送り込んで、イスラエルの根絶を支援していたのです。イスラエル国家とイスラエルの名が、もはや覚えられないように。

覚えていてください。

ダヴィド・ベン=グリオンが1948年、金曜日でしたが、テルアビブ美術館で独立宣言を読み上げた時に、イスラエルという名と共に、国家が誕生したのです。そこで彼は、宣言しました。

「私はここに、イスラエル国と呼ばれる、ユダヤ人国家の創設を宣言する。」



イスラエル建国を宣言するベン=グリオン

2000年近くの後、人の命だけでなく、人々だけでなく、地の名前が、国とその土地に回復されたのです。まず神は、土地を癒され、それから人々を救い出し、そして人々を故国に帰還させ、次にその土地と人々に名前を回復させたのです。その名前がまさに、私たちと隣接している国家、国境を共にしているヨルダン、エジプト、シリア、レバノンが消し去りたかった名前です。そして、これが詩篇83篇です。

皆さん、理解しておいてください。

1948年、1956年、1967年、1973年の戦争は、私が第一の層と呼ぶイスラエルと隣接する、詩篇83篇に書かれている国々が相手でした。当時の問題は、パレスチナ人でもなければ、ゴラン高原でもなく、西岸地区でもありません。1948年、我々には西岸もガザも、ゴラン高原もありませんでしたから。

彼らの標的はただ、国家としての我々を滅ぼすことでした。

4 …「…イスラエルの名が、もはや覚えられないようにしよう。」

(詩篇83:4)

皆さん、理解しなければなりません。今日の状況は70年前のものとは、全く違います。60年前でさえ違います。さらに言えば、50年前でさえ全く違うのです。今日、国家としての私たちが滅ぼそうとしている国々は、詩篇83篇が伝えている国々ではありません。

エジプトはイスラエルと平和があります。事実、我々はその和平から利益を得ていますし、彼らも利益を得ています。ヨルダンも、事実ヨルダンの王は戦略的決断をしています。

「イスラエル国家を認識し、イスラエル国家と協力する」

と。そして実際、ヨルダンは反キリストの脅威からユダヤ人が逃れるため、門戸を開きます。ヨルダンは終わりの時、重要な役割を果たすのです。イスラエルの歴史の中で、良い役割です。

ですから、1940年代、50年代、60年代イスラエルを根絶させようとしたヨルダンとエジプトという巨大軍勢は、もはやイスラエルにとって脅威の対象ではありません。

では、シリアはどうか？シリアは、もはや私たちが脅しもしていません。主権国家としてのシリアは存在していません。

では、現在私たちが脅かしているのは、誰なのか？

確かに、彼らはシリアにいます。しかし、彼らはシリア人ではありません。私たちはシリア人を恐れてはいま

せん。現在の彼らには、私たちが恐れるようなものは一切ありませんから。現在、イスラエルが抱えている問題は、イラン、ロシア、トルコの地位確立で、この全てが我々の国境の向こう側、シリア国内にいます。

ですから、覚えていてください。

詩篇 83 篇にはイランもロシアもトルコも出て来ません。そこに書かれているのは、1940 年代、50 年代、60 年代におけるイスラエルと隣接する敵、第一の層の国々で、彼らはもはや、我々の敵ではありません。シリアは存在せず、レバノンは我々との戦争を望んでいません。それを望んでいるのはヒズボラだけで、これはレバノンではなく、ただのテロ組織です。それからエジプト、ヨルダンが我々との間に平和があります。

ですから、忘れてはいけません。詩篇 83 篇は、独立記念日には毎年読まれています、それでも、敵の目的は我々を根絶する事、イスラエルを消し去って、イスラエルの名がもはや覚えられないようにする事です。私たちは、いつもこの詩篇を朗読します。そうです、同感ですよ。しかしその詩篇は、1948 年、1956 年、1967 年、1973 年に成就したのです。1970 年代からは、ヨルダンはすでにその図から外れ始めて、彼らはもう、私たちと戦っていません。それから 70 年代の終わりからは、エジプトが図から外れ始めました。

ですから、皆さん、神の御言葉の成就を理解するためには、中東の歴史的、地理的、地政治的な出来事を見なければなりません。

ということで、エゼキエル 36 章は成就され、37 章は成就され、イザヤ書 66 章は成就され、次に、詩篇 83 篇もすでに成就されています。これら全てについてお話ししました。

次に、皆さん理解しておいてください。

イスラエルは 1940 年代、50 年代、60 年代は非常に貧しい国だったのです。私たちは何も輸出することが出来ませんでした。我々は貧しく、生きていくのがやっとで、1940 年代、50 年代、60 年代、恐らく 70 年代も、侵略して略奪し、獲物をかすめ奪おう、と思うような国ではありませんでした。言っておきますが、当時我々にあったのは、フムス（書記注：ヒヨコマメのディップ）とファラフェル（ヒヨコマメのコロッケ）、シュワルマ（漬け込みラム肉の焼肉）ぐらいで、そのために我々に侵略して来る者など、誰もいません。

皆さん、理解しなければなりません。イスラエルが世界で強盛大国になるためには、何かが起こらなければならないのです。諸国が欲しがるといふような、何か特別なものを持つ必要があるのです。それがエゼキエル 38、39 章の話です。ゴグとマゴグの大首長が侵略する目的を見て、その背後にある理由を見てみると、政治的は理由はありません。宗教的な理由すらありません。ゴグの目的は、それではないのです。彼の目的はただ分捕り、かすめ奪い、略奪することだと聖書は告げています。つまり経済的なもの、経済利益です。

ロシアが欲しいと思うものを、イスラエルが持ち、強盛大国に上り始めたのはいつからでしょうか。ほんの、ここ 5、6 年の間です。我々が地中海底に膨大な量の天然ガスと、明らかに石油を発見して以来、その時にロシアは「あそこで何かが起こっている」と言い、唐突にロシアは、非常に興味を持ち始めたのです。仮に彼らが、シリアの海軍基地を狙っていたとすれば、今や彼らには、さらに大きな狙いがあるのです。

実際、すべての国が突然目覚めました。

我々が発見したガスをめぐって、トルコはもう少しでギリシャと戦争を始めるところでした。キプロスの二つの地域が、そのために戦い寸前です。その石油とガスのために、中東では非常な緊張感が高まっているのです。

皆さん、それがやがてロシアを引きずり込む鉤である、と私は信じています。彼らは、現在起こっているシリアの内戦を利用して、二つのことを行うために、物理的に下って来ます。自分たちの地位を確立し、必死でアサド政権を維持するためです。それは、彼らがあそこで自由に活動するのを許しているのが、アサドだからです。それが今現在起こっている事です。ここで勘違いをしてはいけませんよ。皆さんには恐らく、この舞台裏が見えていないでしょうが、

——特にアメリカの皆さんにお伝えしたいのは、素人である、私たちには全ての事は分かりません。しかし、ホワイトハウスの回廊、大統領執務室から見ると、物事は異なります。ドナルド・トランプ大統領が受け継いだ最大の問題は、サウジアラビアがロシアと交わした協議です。よく聞いてください。

サウジアラビアがロシアと交わしている協議は、石油価格を復活させるためのものです。前世紀は1バレルが130~150ドルで、2014年の終わりには70ドル近く、2016年にはおよそ30ドルでした。これが、大危機なのです。そこで、ロシアとサウジが共に決断したのは、一日180万バレルと石油生産を制限し、そして独占販売のやり方で、価格をつり上げようとしたのです。そうすれば、1バレル50ドル、60ドル、あるいは70ドルまで上げられるかも知れない。問題は、1バレルあたりの値段は上げられるかも知れませんが、生産量が下がります。もちろん、トランプ大統領は就任した時、このロシアとサウジのロマンスを問題視し、直ちに、——トランプ大統領がまず第一にした事の一つは、堆積岩や化石、石油生産に変わるもの全てを復活させ、当然、さらなる掘削、さらなる海洋掘削をいたるところで認めました。

皆さん、言っておきますが、アメリカのヨーロッパ諸国への石油輸出は上昇していて、去年は7%、今年は12%、来年には25%になっているでしょう。つまりアメリカが世界最大の石油輸出国になるかも知れない、という話です。そして、そうなると当然、サウジとロシアの協議に、彼は憤ります。そこで彼は、競合という、最も致命的な武器を使っているのです。

私が思うに、トランプ大統領がイラン協議から手を引いて、イランをシリアから取り去り、地図上から消し去りたい理由は、イランの石油生産における全ての機能を断ち切るためです。それと当然、アメリカの石油を世界中に流通させて、アメリカ経済復興です。

石油価格の低下で、ベネズエラは大きな代償を払いました。それからリビアも崩壊寸前です。

リビアの将軍（書記注：ハフタル将軍）が、現在、ロシアの後援の下油田全部を支配しています。といっても、彼はもういませんが。実際は、彼はパリで入院しました（書記注：重篤説、毒を盛られたなど諸説あり）。

現在、イランはあの協議を維持するために戦っています。もしドナルド・トランプが撤退すれば、他の者も撤退することを、彼らは理解していますから。誰も、アメリカとの取引を制裁されるリスクを冒してまで、協議に留まりません。イランは、アメリカ市場の5%を占めています。会社はアメリカに留まり、自身がイランから離れる事を選ぶでしょう。現在は、これが大きな問題です。

ですから、皆さん理解しておいてください。イスラエルの誕生は、エゼキエル36章、37章、イザヤ書66章の大きな成就です。イスラエルの最初の30年は、詩篇83篇の見事な成就でした。そして現在、イスラエルは我々の近隣諸国の、どれによっても、絶滅されようとはしていません。明確にしておきます。詩篇83篇は、近隣諸国について語っていますが、彼らはもう、攻撃したり滅ぼしたり、そういった脅威をもたらすことは出来ません。私たちは理解しておかなければなりません。現在の中東では、新しい同盟が出来上がっているのです。一旦、ロシュの顎に鉤がかけられ、シリアのイスラエル国境まで引きずり出されると、ロシアは、今彼らにとっての最高の味方はイランである事を理解しています。これについて明確にしておきます。皆さんは恐らくご存知ないでしょうが、現在、ロシアもイランも共に、世界の政治界で好かれていません。ロシアにはお金がなく、イランには貿易の能力がありません。そこで、ロシアとイランが生み出したものは、バーター（物々交換）と呼ばれるものです。

「我々は、アメリカのオイルダラーは使わない」

と彼らは言い、基本的には、彼らは取り決めをしたのです。だから現在、ロシアは常にイランの側に立つのです。皆さん、理解しておいてください。イランの石油は、ロシアの物資と引き換えに、ロシアに送られています。ロシアの物資とは、食べ物であったり、武器ということもあり得ます。つまり、1億バレルで、450億ドル（書記注：1ドル109円として、約4兆9千億円）相当の商品です。さらに彼らは、これら全ての報告を、アメリカを罰するために、ドルではなくユーロで誇示しているのです。今、イランがしている事は、自分に対する罰以外何のものでもない、私は思

います。

ドナルド・トランプ大統領には、世界を納得させる、イラン協議から撤退するための理由がいくらでもあります。これまで彼らは、「地獄の火蓋が切って落とされる！」と約束して来ましたが、それは、敵の脅しの手口でしかない事が分かりました。大使館のエルサレムへの移転のような正しい行いをすると、やがて人々は指導者として彼を見て、後に続くようになります。昨日（4月25日）はチェコ共和国が大使館をエルサレムへ移すことを決定しました。ルーマニア、ホンジュラス、もちろんアメリカ、それから、南アメリカの他の国、五ヶ国が大使館をエルサレムへ移転するのです。ひとえに、ドナルド・トランプの指導力のおかげです。これからさらに増えることが、私たちには分かっています。ともかく、正しいことを行うのを恐れてはいけません。そして、否定的な者の声を聞いてはいけません。彼らは、その事であなたを脅し、あなたに恐れを抱かせただけですから。

さて、過去に多くの事が起こったのは理解しましたね。

次に私たちは、近く成就されるエゼキエルの次の章に向けて、全ての同盟が出来上がっているのを目撃しています。エゼキエルが告げているのは、イラン、ロシア、トルコの同盟だけでなく、更に、サウジがイスラエルを攻撃する側につかないことも告げています。

シェバとデダンは、分捕り、獲物をかすめ奪いに行く者に対して抗議します。ですから、エゼキエルが成就されるためには、まず、中東で結ばれている政治的同盟を見なければなりません。そして私たちは、それを目撃しています。私たちはすでに、中東で最強の同盟が組まれているのを目撃しています。ロシア、イラン、トルコの同盟。もしくは、反対側のサウジは、実際にアメリカ、イスラエル、それからヨルダンとエジプト側へと移動しています。イランが、「イスラエルを滅ぼす」という彼らの夢、ファンタジーをかなえようとする動きを止めるためです。イランは、ただイスラエルを滅ぼしたいだけでなく、サウジアラビアも、それからもちろん最終的には、アメリカも滅ぼしたいのです。

このように、特定の事が起こるのを現在目にしています。また、エゼキエル戦争が起こるための同盟が出来上がっているのも見えています。それから、ヨーロッパもアメリカも両方が、中東で新たな軍事的対立を止めるため、積極的には動かないという、世界的な空気が出来上がっているのを目にしています。イスラエルは、ロシアがそこから何かをかすめ奪いたい、略奪したいと考えるだけのレベルに達しているのを目にしています。イスラエルは50年代、60年代、70年代とは違って、——我々は今や、世界の最先端国家の一つ、経済最先端です。それからアメリカには、1948年以降、ハリー・トルーマンがイスラエル国家を認識して以来、最も友好的な政権が存在していることも、我々は理解しています。両方とも、福音派とイスラエルの両方に対して友好的です。その政権は、イスラエルを道徳的に支援します。しかし同時に、

「我々には、中東の問題を解決することは出来ない」

「最終的にはあなたがたで互いに対応しなければならない」

ともイスラエルに伝えています。

「ドナルド・トランプは問題解決の一部なのか？」という質問がありましたが、私がいつも言うのは、神は、何百万というアメリカ人の祈りを聞かれたのです。かつてはポルノではなく福音を、人間の名誉ではなく神の御言葉を世界に送り出していた偉大な国を、神が憐れんでくださるようにと、ひざまずいて神に祈った人たちのために、神は、非常にたくさんの人たちの祈りを聞かれたのです。だからアメリカは今、短期間の恵みを楽しんでいるのだと私は思っています。この短期間の間、非常に多くの悲惨な事が、新しい政権によって一時的に止められているのを、私たちは目にしています。昨日、ラッシュ・リンボウが「非常に危惧している」と言っていますが、アメリカの左派がトランプ米大統領を取り去ることを堅く決意していて、基本的にはアメリカまでも滅ぼそうとして暴動を起こしています。

彼らには、現在自分たちがアメリカの組織に対して行なっていることに伴う代償すら見えていないのです。しかし、やがては…人々の欲求を見れば、アメリカはすでに間違った方向に向かっていますが、——しかし神は祈りを聞き、尊重してくださって、アメリカに現在、少しの間だけ期間を与えてくださったのです。そして、その期間は、私たちが自由に活動出来る期間です。だから私たちは、今出来る限り聖徒を整え、聖徒を励まし、そして、城壁の見張り人として、世にこれから起こる事を伝えるのです。現在、来るべき世界秩序や、来る中東での戦争や、来る偽の平和など、私たちの前で、非常に多くの聖書的な事が部分的に起こっています。私たちは今、イスラエルの回復の大成就と、教会がいなくなった後に、神がイスラエルに対処されることの大成就との、わずかな隙間にいるのです。これが、私たちがこんにち目にしているものです。

次に、ゼカリヤ 12 章、13 章、14 章のように、神がイスラエルに対処されることについて告げている、聖書の記述がいくつかあります。たとえば、ゼカリヤ 12 章では、大患難の終わりに起こる戦争について書かれています。そこには、イスラエルが自分たちの突き刺した方を見る、と書かれています。この章には、恐らくローマ書 11 章が告げている、イスラエル国家の救いについて書かれています。さらに 13 章には、大患難の最中、イスラエルの 3 分の 2 が滅びる、そして神が、残りの 3 分の 1 を火の中を通らせる、とあります。さらにゼカリヤ 14 章では、その戦争の終わりに、キリストが私たちと共に戻ってきて、千年の間統治される、とあります。ゼカリヤ 14 章にはこうあります。

4 その日、主の足は、エルサレムの東に面するオリーブ山の上に立つ。

(ゼカリヤ 14:4a)

そして、その時から全ての諸国は、毎年エルサレムを訪れて、仮庵の祭りを祝わなければならない(16 節参照)。クリスマスでもなく、イースターでもなく、絶対ラマダンではありません。仮庵の祭りです。神が、人々の中に住まれ、そして人々はエルサレムに上って行って、祝わなければなりません。ですから、ゼカリヤ書の一部、12、13、14 章は大患難後についてです。

また、大患難について語っている部分は、もちろんダニエル 9 章、黙示録 12 章で、イスラエル国家である女が、メシアである男の子を産みます。それから聖書には、その女が荒野に逃げる、とあり、荒野にどれぐらいの期間いるのかが、実に詳細に書かれています。もちろんこれは、大患難の後半部分で、最初の 3 年半では、イスラエルは欺かれ、反キリストがメシアであり、真の平和だと信じます。それから後半の 3 年半で、彼らは逃げなければならないことを悟ります。

彼はメシアではなく、偽者だ、と。

彼は神ではなく、人間だ。彼が我々を滅ぼしたいのは確実だ、と。

そして彼らは荒野に逃げ、そこに留まる日数は、聖書の 7 年の大患難のうちの 3 年半と同じです。

このように、イスラエルに関して、もしくは主が戻って来られてから起こる事を記した箇所がたくさんあります。ですから、先ほども言いましたように、私はすでに成就されたエゼキエル 36 章、37 章、イザヤ書 66 章、詩篇 83 篇と、次に非常に近い将来起こるイザヤ書 17 章のダマスカスの崩壊、エゼキエル書 38 章、39 章の間にいます。これは現在のどの新聞よりも正確に記されていて、苛立ったロシア、イラン、トルコの、イスラエルに対する戦争です。一つの事を覚えていてください。彼らにとっては、他のものを滅ぼすことが出来なければ、必ず、イスラエルが簡単な標的であり、いつもの容疑者なのです。

次に、覚えていてください。我々には、イランのシリア駐留が問題なのです。もし、イランがイランに留まるのなら、私たちに中東に何の問題もありません。問題は、イランが国境の向こう側に移動してきて、日夜我々を滅ぼすこと

を企んでいることです。我々は以前にもそれを言い、今も言いますが、それは、我々が認めません。数週間前に起こったことの結果として、ロシアは地対空ミサイル S-300 防空システムをシリアに移動させることに決めました。彼らは、これからそれを行う、と世界に告げていますが、前回のアップデートでもお伝えしたように、彼らはすでにその大部分を持ち込んでいることを、私たちは知っています。そしてロシアが、じつに単純明確に告げているのは、

「イスラエルがこのシステムを破壊することは認めない」

イスラエルはすでに、

「我々が、シリアに行って我々に対する脅威を根絶するものを妨げるものは、いかなるものでも我々が破壊する。それがロシア製、イラン製、トルコ製であろうと、アメリカ製のシステムであっても、イスラエルの戦闘機が飛行して、我々に敵対する戦略に対して、我々が必要な措置を取るのを妨げるシステムはすべて破壊する」

と一度以上告げています。

S-300 はもう 30~40 年前に造られたものです。もちろん、修正はされていますが、それでも古くて、我々の F-35 は必要であれば、簡単に探知されずに飛行し、処置を行うことは可能です。私は、それが近い将来起こるのではないかと、思っています。そしてイスラエルは直接対立することになるのではないかと、と。イランとではなく、他の誰でもない、ロシアと、です。ロシアは、前回のイスラエルによる T-4 空軍基地への攻撃は、度を超えていたと考えています。イスラエルは少しやり過ぎて、ロシアに恥をかかせた、と。だから彼らは現在、非常に過敏になっていて、アメリカもヨーロッパも、イスラエルは確実にロシアに恥をかかせ、ロシアの主権、それから、ロシアがああ地域の指導者であるという感覚に恥をかかせたと思っています。ロシアが屈辱を受けたのは確実です。だからロシアは、復讐を狙っています。しかし、覚えていてください。ロシアは馬鹿ではありません。彼らはただの教理や、名誉や、恥辱のために戦争をしたりはしません。そして彼らは、そこから何かを得るためなら、何でもします。彼らは常に、その中に利益を探します。それが、エゼキエルが告げている事です。彼は、イスラエルの行為のために戦争が起こる、とは記述しておらず、誰か分捕り、略奪しようと決意した者、我々から何かを取る者について書いているのです。そしてそれは、ただの土地ではなく、我々が持っているもので、相手にとって価値のある何かです。非常に興味深いのは、エゼキエル 38 章 15 節で、主がこう告げておられます。

15 あなたは、北の果てのあなたの国から（ロシアは北の果てです）、多くの国々の民を率いて来る。彼らはみな馬に乗る者で、大集団、大軍勢だ。

16 あなたは、わたしの民イスラエルを攻めに上り、終わりの日に、あなたは地をおおう雲のようになる。ゴグよ。わたしはあなたに、わたしの地を攻めさせる。それは、わたしがあなたを使って諸国の民の目の前にわたしの聖なることを示し、彼らがわたしを知るためだ。

（エゼキエル 38:15~16）

主について、私が大好きなことの一つは、神は人の憎しみを利用して、最終的には神に栄光をもたらされるのです。考えてみてください。たとえイスラエルの敵が、何度もイスラエルを痛めつけたとしても、最終的に彼らは、神によって罰せられます。彼らは、イスラエルの不信仰を罰する目的のために、神によって使われるかもしれませんが、しかしいずれ、神が彼らの事を罰せられます。皆さん、理解しておいてください。

神がコントロールしておられます。

神は、何が起きているのか分かっておられます。

神は、物事が起こるのを許されるのです。

ここを見てください。これは美しい描写です。神が言われるのです。

「わたしは、あなたの考えていることを知っている。

あなたが、これから行おうとしていることを、わたしは知っている。

わたしは、それが起こるのを許すのだ。

わたしは、わたしがあがめられるために、それを利用する。
世界が、わたしが神であることを知るために、わたしはそれを利用する。
わたしがイスラエルをその攻撃から守るのを見るとき、世は、わたしが神であることを知る。」

ところで、私が来月シンシナティーで教えるのは、

「なぜ御言葉は『まず初めにユダヤ人』と告げているのか。」

いずれ皆さんもインターネットでご覧いただけますが、おもな理由の一つは、神が世界の他の国々に対して、そのご性質、主の特性を実演するために、フラッグシップ（旗艦）となる国家が必要だったのです。そして、イスラエルがそれなのです。神が、イスラエルを祝福されるやり方、またイスラエルが困難に直面するのを神が許されるそのやり方も、最終的には神の御名があがめられるためです。主の御名が、世界の諸国によってほめたたえられるためです。神がイスラエルを愛し、他を憎んでおられるためではありません。そうではなく、神は、他の諸国に言っておられるのです。

「わたしが彼らにしたことを見なさい。それがわたした。それがすべてだ。」

このように、とても美しい描写です。

ということで、全てを正しい視点に置いてみました。

もうすでに50分ほどたっていますので、そろそろ終わりにしますが、私たちが今、どの時点にいるのかをどうか理解しておいてください。

大患難の後に起こる事について、告げている御言葉があります。

そして、大患難の最中に起こる事を告げている御言葉があります。

それから、ダマスカスの滅びやエゼキエル戦争のように、次に起こる事を告げている御言葉があります。

そしてまた、詩篇 83 篇、エゼキエル 36 章、37 章、さらにはイザヤ書 66 章のように、すでに成就された御言葉もあります。

ですから、覚えていてください。神はそこにおられ、言われたことは全て成就されます。

それから、イザヤの美しい聖句を皆さんに思い出してほしいと思います。イザヤ書 46 章です。ここは、ニュースレターに引用しましたが、もしニュースレターをご登録されていない方は、どうぞご登録ください。

9 …わたしが神である。ほかにはいない。わたしのよな神はいない。

10 わたしは、終わりの事を初めから告げ、まだなされていない事を昔から告げ、『わたしのはかりごとは成就し、わたしの望む事をすべて成し遂げる』と言う。

(イザヤ 46:9b~10)

神は、耳を傾ける者に、初めから終わりの事を告げておられるだけでなく、さらに

「恐れるな。動揺するな。わたしは、わたしの望む事をすべて行うのだ。わたしが起こるのを許す事も、わたしが完全にコントロールしている。わたしの民を滅ぼそうとする者を見るのも、わたしの望むところだ。彼らが激しく失望するのを見るのも、わたしの望むところだ。」

と言っておられるのです。

それが神です。それから、神がイスラエルに対して、非常に真実であられる道は、世界中のどの信者に対しても、彼が私たち全員に対して、どれほど真実であられるかを理解するための、素晴らしい道です。イスラエルは、神が真実であられることの描写です。イスラエルは、保険の証書です。神の約束、選びは、覆すことが出来ません。それは、あなたに対しても同じです。もし神が、イスラエルに関して考えを変えられるなら、神はあなたに関して考えを変えられないなんて、どうして自信を持って言えますか？これら全てを目にするのは、とても美しい事です。ですから皆

さん、どうか元気を出してください。私たちが覚えておかなければならないことの一つは、見張り人として、人に警告を与えるだけでなく、周りを見て、物事がどれほど見事に成就されているかを知ることです。聖書にはこうあります。

18 こういうわけですから、このことばをもって互いに慰め合いなさい。

(第一テサロニケ 4:18)

互いに慰め合うのは、第一テサロニケ 5章にあるように、私たちは神の御怒りに会うようには定められていないからです。第一テサロニケ 4章にある通り、私たちは、もうすぐ主にお会いする、彼がもうすぐ私たちを取り去りに来てくださるから、互いに慰め合うのです。そして、両方で彼が言うておられるのです。

「こういうわけですから、このことばをもって互いに慰め合いなさい。

互いに高め合いなさい。互いに励まし合いなさい。」

私は外れ者だ、私の周りには信者が誰もいない、と考えるのは簡単ですよ。そして、そのことで私たちは落ち込んでしまいがちです。

しかし、覚えていてください。

私たちは決して、この世の多数派になることはありません。

私たちは、常に少数派です。

山上の垂訓で、イエスは弟子たちに

「多数派になる者は幸いだ」

とは決して言われませんでした。違います。

そうではありません。

「あなたがたは、私の敵から迫害される」

と言われたのです。そして私たちが、すっかり盲目になっている世から迫害されるなら、私たちはそれを喜びとし、この上もない祝福だと考えるのです。

天に大きな報いがある、と主は言われました。

だから私たちは、自分に言い聞かせなければなりません。

私たちが多数派になって支配するのは、新しいエルサレム、新しい天と地で、私たちだけになった時ですよ。その時だけです。

その時まで、私たちはいつも敵対者に苦しむのです。信じたくないかもしれませんが、千年王国でさえ、イエスご自身が統治されるのに、なんと、第二のゴグとマゴグで私たちは攻撃されるのです。私たちは攻撃され、サタンはしばらくの間、諸国を欺くために底知れぬところから解き放たれ、愛された都を取り囲み、またしても私たちを滅ぼそうとするのです。ですから、試練は新天新地になるまであります。それでも、皆さん元気を出してください。私たちは、これから何が起こるのかを知っているのです。間もなく何かが起こり、後に何が起こるのかを告げる御言葉を持っている私たちは、物凄く祝福されているのです。私たちは、話の最後を知っています。だから私たちは、これらの事を思い出しながら、これらのことばをもって、互いに慰め合うのです。

あなたがフィリピンにしようと、ニュージーランドにしようと、オーストラリアにしようと、シンガポールであれ、日本であれ、ヨーロッパにしようと、イギリスにであろうと、アイルランドでもスコットランドでも、カナダであれ、アメリカであれ、メキシコであれ、南アメリカでもロシアでも、あなたがどこにしようと関係ありません。あなたは常に少数派です。それを覚えていてください。またそのことに何の問題もありません。それは素晴らしく、立派な事です。私たちはただ、毎日感動するのです。神が完全に支配しておられますから。

そして神は、世界を騒がせるために私たちを使っておられるのです。どうか、あなたの町、あなたの国を見放さないでください。諦めないでください。まさに主が、悪しきコリントに関して、パウロに言われたのと同じように、

- 9 「恐れなくて、勇敢でいなさい。
- 10 …この町には、わたしの民がたくさんいるから。」

(使徒の働き 18:9~10)

主は今、あなたに言うておられます。
 あなたは今、悪しき場所にいるかもしれません。
 悪しき国、悪しき文化、悪しき何であっても、強くあれ。諦めないで。
 神は、あなたの町、あなたの国、あなたの家族に、まだたくさんの神の民を置いておられます。

ということで、以上です。

明瞭になったことを願います。

ここ数日の撮影での素晴らしい写真を、インスタグラムに投稿しています。どうぞ、インスタグラムの「beholdisrael」を訪れて、フォローしてください。

フェイスブックとユーチューブもフォローしてください。ユーチューブは、もうすぐ登録者数が9万人です。すごいことです。感謝します。

ウェブサイトより、ニュースレターをご登録ください。Behold Israel.org です。

ありがとうございます。

では、皆さん全員の上にアロンの祝福を宣言して、締めくくりたいと思います。

ヴェイシエメレハー

アドナーイ

イエヴァーレフハー

וְיִשְׁמְרֶךָ

יְהוָה

יְבָרְכֶךָ

..(主が)あなたを守られますように

主が

あなたを祝福し

ヴィーフネッカー

エーレーハー

パーナーヴ

アドナーイ

ヤーエール

וַיַּחֲנֶךָ

אֵלֶיךָ

פְּנֵי

יְהוָה

יָאֵר

..(主が)あなたを恵まれますように

あなたに(向けて) 御顔を

主が

照らし

シャーローム

レハー

ヴェヤーセーム

エーレーハー

パーナーヴ

アドナーイ

イッサー

שְׁלוֹם

לְךָ

וַיִּשֶׂם

אֵלֶיךָ

פְּנֵי

יְהוָה

יִשָּׂא

平安を あなたに (主が)賜るように

あなたに(向けて) 御顔を

主が

上げて

(引用：牧師の書齋 <http://meigata-bokushin.secret.jp/>)

- 24 主があなたを祝福し、あなたを守られますように。
- 25 主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。
- 26 主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。

(民数記 6:24~26)

全ての理解を超える平安、平和の君からくる平安、平和の主が、今もこれからもずっと、いつでもどこでも与えてくださいますように。

このお祈りを、平和の君、イエシュアの御名によって祈ります。アーメン。

アーメン！

ありがとうございました。God bless you!

このメッセージをシェアしてください。きっと霧を晴らし、聖書預言において、私たちは現在どこにいるのか、次に何が起こるのかが、明確に理解できるようになることでしょう。

ありがとうございます。イスラエルのガリラヤより、God bless you! さようなら。

メッセージ by Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>

【写真出典一覧】

マクロン仏大統領とトランプ米大統領：米仏首脳会談、イラン核問題巡り新合意目指す考えで一致 2018.4.25

NEWSWEEK 日本版

マーク・トウェイン：PukiWikiIsrael

ホロコースト：An evening with Lawrence Rees: a talk on his book 'The Holocaust' and Q&A Institute of Education

イスラエル建国を宣言するベン=グリオン：Wikipedia 「ダヴィド・ベン=グリオン」